

校長室から応援メッセージ(その5)

令和5年9月29日(金)

広い世界に開かれたコミュニケーション

皆さん、こんにちは。いきなり本題に入ります。先週のマーク模試世界史で、イベリア半島の歴史について述べた文として誤っているものを選ぶ問いがありました。「西ゴート王国はフランク王国によって滅ぼされた」が誤りで答えです。西ゴート王国はイスラーム王朝のウマイヤ朝によって滅ぼされました。

この短い文には、移動したゲルマン民族がイベリア半島に建国した国家と、そこにイスラーム勢力が進出し、そしてその後のキリスト教とイスラーム教の対立と共存が暗示されています。知識を身に付け、時間と空間を超えた広い世界をイメージできなければ正答できないのですが、教科書の範囲の知識がそれを可能にします。懸命に覚えた知識を入試後に忘れてしまっても、世界の広がりは残ります。世界史は、暗記科目の代表みたいに言われますが、私は「それで何か問題でも?」と問い返すことにしています。

勉強とはこの世界の広がり身を以て実感することです。さきほどの「西ゴート王国はフランク王国によって滅ぼされた」の間違ひは、世界史を勉強していない人も時間をかけてスマホで調べれば指摘できるのかもしれませんが。しかしその背景となる知識を前提として持っていなければ、その調べ物は、時間と空間の広がりイメージを欠いた、単なる探し物にすぎません。

全ての教科科目にそれぞれの切り口からの世界の広がりがあります。私は大学を理系で受験しましたが、ノートを数式で埋めていくと自分の世界が広がるように感じ、数学の勉強が好きでした。確率の問題で考えられる全ての可能性をみれなく数え上げ、図形の問題で円や三角形の性質がどこに潜んでいるのか見極める。数学の勉強を、将来役に立たない、などと、どこの誰が言うのでしょうか。学問を構築した先人の努力に敬意を表します。

学ぶということで私たちはその学問を構築した先人たちとコミュニケーションをとっているのではないのでしょうか。また受験生としての仲間が同じ場所で同じ方向を見つめて学ぶ、そこにお互いの会話はなくても隣人同士のコミュニケーションが生まれていると思います。皆さんは、身近なところから広い世界に開かれた、とても壮大で、とても崇高なコミュニケーションの中にあるのです。前回、「受験勉強は人生の本番である」と申し上げました。今回は次のように申し上げたいと思います。「受験勉強は壮大で崇高なコミュニケーションである」。「崇高な」は言い過ぎかもしれませんが。皆さんの健闘を祈ります。